

事例3：博多湾エコパークゾーンにおける市民と連携した取組

取組の背景・経緯



博多湾は福岡県北西部に位置する面積約133km²の内湾である。平成元年の博多湾港湾計画改訂の際、博多湾東部に広がる浅海域や和白干潟などの自然環境を保全するため、島形式（アイランドシティ）の埋立計画に変更するとともに、保全された約550haのエリアを、自然と人の共生をめざす「エコパークゾーン」と位置づけ、自然環境の保全・創造に向けた整備や取組が行われている。



博多湾とエコパークゾーンの位置
出典)「エコパークゾーンガイドブック Ver.4」
(福岡市港湾空港局環境対策課 平成28年4月)

整備にあたっては、平成9年に「エコパークゾーン整備基本計画」が策定され、地域の特色を活かしたゾーニングを行うとともに、海域環境の保全・創造や親水性の高い海岸整備等が進められている。

さらに、平成22年には学識経験者と市民で構成される委員会において、これまでの取組の検証や今後の整備のあり方などが「エコパークゾーン環境保全創造計画」として提言され、さらなる環境質の向上や豊かな自然にふれ親しめる場となるようハード、ソフトの両面からエコパークゾーンの魅力向上に向けた取組が行われている。

取組の内容

残された干潟を中心として、行政と市民団体や企業などが有機的に連携・共働した取組

<実施体制>

福岡市港湾空港局により、生きものの生息環境に配慮した護岸や海とふれ親しめる水辺空間の整備、水底質の改善、「海のゆりかご」と言われる海藻群落アマモ場の造成など、ハード面の施策が進められている。

また、和白干潟などでは市民団体等による多くの自発的な取組が行われている。個々の取組を有機的に結び付け、相乗効果を生み出すことを目指し、市民団体や行政による市民協議会が組織されるなど“市民共働”型が進められている。



エコパークゾーンで実施された施策
出典)博多港ホームページ

<活動状況>

○和白干潟保全のつどい (H18.4~)

- ・和白干潟を中心に活動する市民団体や行政(福岡市港湾空港局)による協議会。
- ・毎月1回意見交換しながら、利用者向け啓発看板の設置や干潟観察会、海藻アオサの清掃活動、バードウォッチングなど、和白干潟の自然環境保全に向けた市民参加型の環境保全活動を企画・実施。



和白干潟保全のつどいによる看板設置とバードウォッチングの様子
提供)福岡市港湾空港局環境対策課

○水域利用ルールの啓発 (H20.4~)

- ・利用者団体や地域住民、環境団体、関係行政機関で、エコパークゾーン水域の利用についての検討を行い、自然環境・住環境への配慮、安全対策、利用水域の指定などを定めた自主ルールを策定し、啓発を行っている。

取組の種類

海域、海岸域の保全

○アマモ場づくり (H17~)

- ・地元小学校や地域住民と連携して、魚介類の産卵場や生息場となるアマモ場を造成するための種子シートやポット苗の作製などが実施されている。



地元小学校と連携したアマモ場づくり

○市民参加によるアオサ清掃活動とアオサ有効活用の検討 (H19~)

- ・和白干潟では市民参加によるアオサ清掃活動(アオサのお掃除大作戦)が毎年開催されている。和白干潟の豊かな自然を保全するとともに、アオサや干潟の環境について理解を深めてもらう機会として定着している。最近では地元企業や団体の参加も増え、広がりを見せている。
- ・回収したアオサはNPOと共働で堆肥化を行うなど、有効活用の検討が行われている。



アオサのお掃除大作戦
(回収したアオサはそこで遊ぶ)

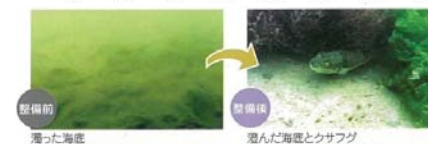
アオサの堆肥化

提供)福岡市港湾空港局環境対策課

取組の成果

○底生生物の増加

- ・御島ゾーンでは、有機汚泥化した海底面に良質な海砂を撒く「覆砂」や、海水交換を促進するための滞筋を海底に掘る「作溝」が実施された。
- ・整備前に比べ底生生物の数が増加し、現在でも自然豊かで生きものがすみやすい環境が維持されている。



御島ゾーンにおける覆砂・作溝の効果
出典)「エコパークゾーンガイドブック Ver.4」
(福岡市港湾空港局環境対策課 平成28年4月)



凡例
 覆砂:約15.6ha(平成9~11年度,17年度)
 作溝:約1.3km(平成10年度,12~13年度)
 アマモ場:約2,650m²(平成17~20年度)

○良好な親水空間の形成

- ・散歩、潮干狩りなどの利用が見られるなど、多くの市民が海と親しむことができる良好な親水空間が形成された。

取組のポイント

- 博多湾エコパークゾーンは、大都市である福岡市に位置していながら、様々な市民団体などにより多くの取組が行われている中で、**個々の取組を有機的に結び付けるような工夫をしつつ市民共働型**に進められている。
- 毎月1回開催される市民協議会は、市民団体と行政との意見交換・情報共有の場となっており、それぞれが積極的に関わっていくことで信頼関係が構築されるとともに、市民団体と行政が連携した**新たな取組の創生の場としての機能**も果たしている。
- 市民参加によるアマモ場づくりやアオサの清掃活動などの実施にあたっては、地域の企業や団体などに対して個別に協力を呼びかけるなど、いわば**オーダーメイド的な体制づくり**が行われている。
- エコパークゾーンの認知度や関心を高め、価値を感じてもらうため「エコパークゾーンガイドブック」が発行されている。ガイドブックは、行政の担当者自らが現場での経験や体験をもとに作成したものであり、散策マップや環境学習教材としての機能を備えるなど、創意工夫が盛り込まれ、高い広報効果が得られている。

参考 URL

- 博多港ホームページ (<http://port-of-hakata.city.fukuoka.lg.jp/index.php>)